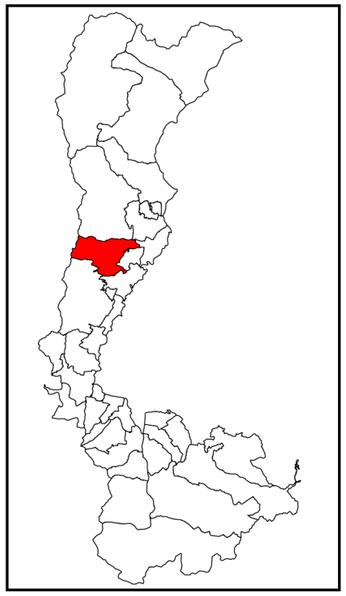
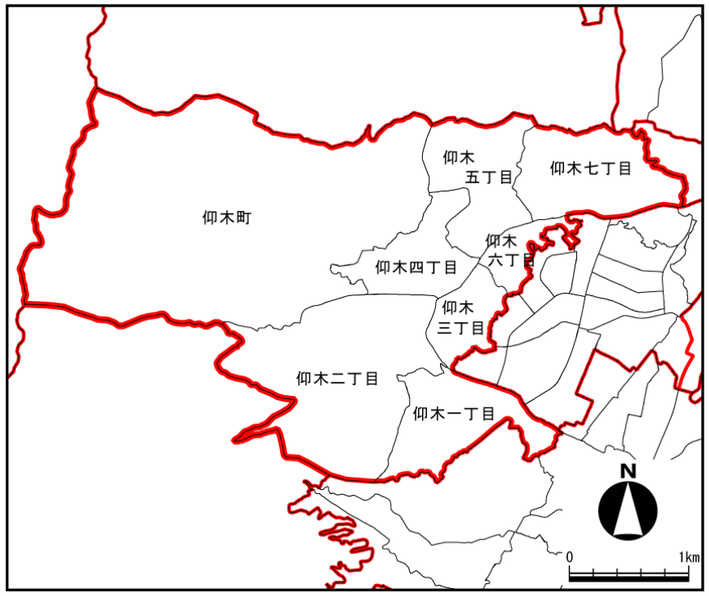
◆ 仰木学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

仰木一丁目、仰木二丁目、仰木三丁目、仰木四丁目、仰木五丁目、仰木六丁目、仰木七丁目、仰木町

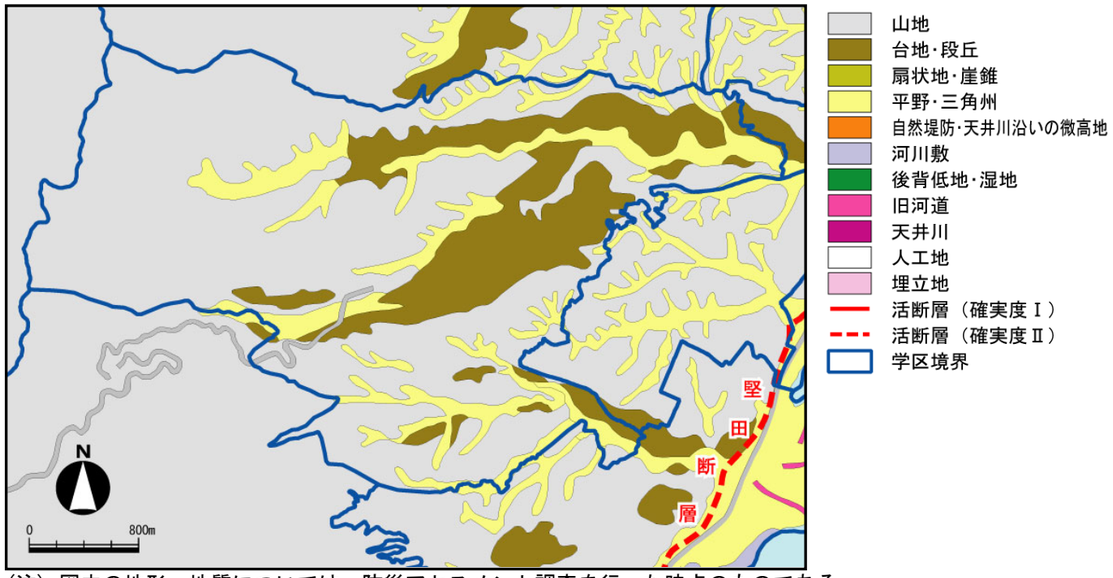
（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

＜学区の特徴＞

仰木学区は、標高 200m 前後の丘陵地に位置する。都と堅田・雄琴を結ぶ仰木道等が通る比叡山麓の農村として、７世紀頃から発展してきたと考えられる。当時の都との関わりを今に伝える宮中言葉が残っている。本地域は伝教大師最澄が延暦寺開講祈願をした地（高日山）として有名である。また、伝教大師作の虚空蔵菩薩をはじめ、重要文化財などの仏像やお堂も多い。

このように歴史が深く伝承も多いこの地域は、棚田や千枚田、河川や山地等のすばらしい自然の宝も有している。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 仰木学区の地形は大部分が山地や丘陵が占めており、西部は山地、東部は堅田丘陵で構成されている。
- 天神川沿いでは段丘が形成されており、低位段丘とそれより一段高い中位段丘に分けられる。

＜地質の特徴＞

- 西部に分布する山地は、主に丹波帯とよばれる中古生代の地層からなり、東部の堅田丘陵は古琵琶湖層群堅田累層からなる。堅田累層は約 100 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。これらの地層は、ところによってはかなり傾斜しており、また地質が砂と粘土の互層であるため、地層が流れ盤になっている側では、粘土層がすべり面となって地すべりが発生する。
- 中位段丘では多くの斜面崩壊が発生している。雄琴・仰木地域を中心とする棚田の光景は、こうした地形地質の条件を人間がうまく利用して生まれたものである。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
仰木町	16.8	99.9	45.5	20.0
仰木一丁目	87.4	99.7	50.0	0.0
仰木二丁目	47.1	92.0	82.1	73.4
仰木三丁目	44.4	93.2	74.2	67.4
仰木四丁目	45.3	87.0	78.6	71.8
仰木五丁目	39.2	91.1	86.5	76.5
仰木六丁目	46.3	74.1	81.3	74.5
仰木七丁目	31.8	98.2	64.1	70.7
学区平均	44.1	96.1	80.5	73.0
出典	1,2	1,2	2	2

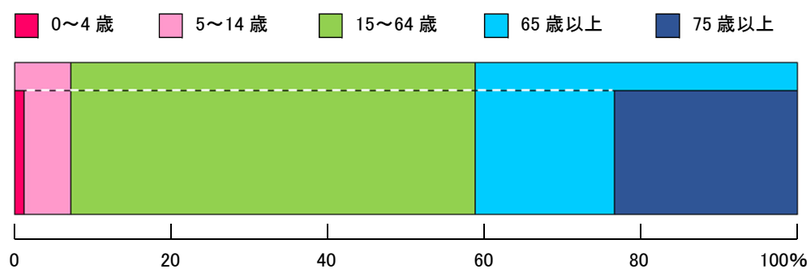
(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
(注 1) 市街化区域を対象とした。
(注 2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 44.1 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha を下回り、市内で４番目に低い。
- 不燃領域率の学区平均は 96.1%で市平均の 93.9%より高い。
- 木造率は、仰木五丁目が 86.5%で最も高く、仰木町が 45.5%で最も低い。学区平均は 80.5%で市平均（全学区の平均）の 72.7%より高い。
- 旧耐震木造建物割合は、仰木五丁目が 76.5%で最も高く、仰木一丁目が 0.0%で最も低い。学区平均は 73.0%で市平均の 40.3%を大きく上回る。仰木一丁目の木造建物は、全て新しい耐震基準で建築されている。
- 木造率の学区平均、旧耐震木造建物割合の学区平均とも市内で２番目に高い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	1,952	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	23	人	学区人口に対する割合	1.2	1
年齢別（5～14 歳）	117	人	学区人口に対する割合	6.0	1
年齢別（15～64 歳）	1,009	人	学区人口に対する割合	51.7	1
年齢別（65 歳以上）	803	人	学区人口に対する割合	41.1	1
年齢別（75 歳以上）	455	人	学区人口に対する割合	23.3	1
世帯数	820	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.4	人/世帯		－	2
要介護認定者	186	人	学区人口に対する割合	9.5	3
身体障害者（要配慮者）	38	人	学区人口に対する割合	2.0	4
知的障害者（要配慮者）	0	人	学区人口に対する割合	0.0	4
外国人居住者	3	人	学区人口に対する割合	0.2	5

(注)　１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 人口は学区東側の台地・段丘・平野部の主要道路周辺に集中している。
- 学区人口は、市内で３番目に少ない。
- 高齢者（65 歳以上）は 803 人、乳幼児（0～4 歳）は 23 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 41.1%、1.2%である。
- 高齢者の学区人口は、市内で２番目に少ない。
- 乳幼児の学区人口は、市内で２番目に少ない。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は 186 人（9.5%）、身体障害者（要配慮者）は 38 人（2.0%）、知的障害者（要配慮者）は 0 人（0.0%）である。
- 外国人居住者は 3 人（0.2%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	24 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	2 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	34 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	57 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	6 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	4 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	1 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	1 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	0 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	0 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	0 ㎡	6
（2.0m～）	0 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	1 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- この学区は、大部分が山地もしくは丘陵地が広く分布しており、地すべり危険箇所や地すべり防止区域に指定されている斜面や土石流危険渓流がいくつか分布している。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 斜面や渓流の周辺では、豪雨時の斜面災害や土砂災害に留意する必要がある。また、地震時には、これらの斜面で崩壊が発生して２次的災害が発生する可能性もある。
- 学区西部に位置する仰木市民センターや仰木分団、避難所・避難場所である仰木小学校・旧仰木幼稚園は、地すべり防止区域に近接、もしくは覆われている。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	仰木小学校グラウンド	○	○	○		仰木四丁目 15-8
	旧仰木幼稚園グラウンド	○	○	○		仰木四丁目 1-30
指定緊急避難場所 兼指定避難所	仰木市民センター	○	○	○		仰木四丁目 15-11
	仰木小学校体育館	○	○	○		仰木四丁目 15-8
	仰木太鼓会館	○	○	○		仰木四丁目 2-50

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234, 528-2616**
仰木市民センター	仰木四丁目 15-11	572-0028

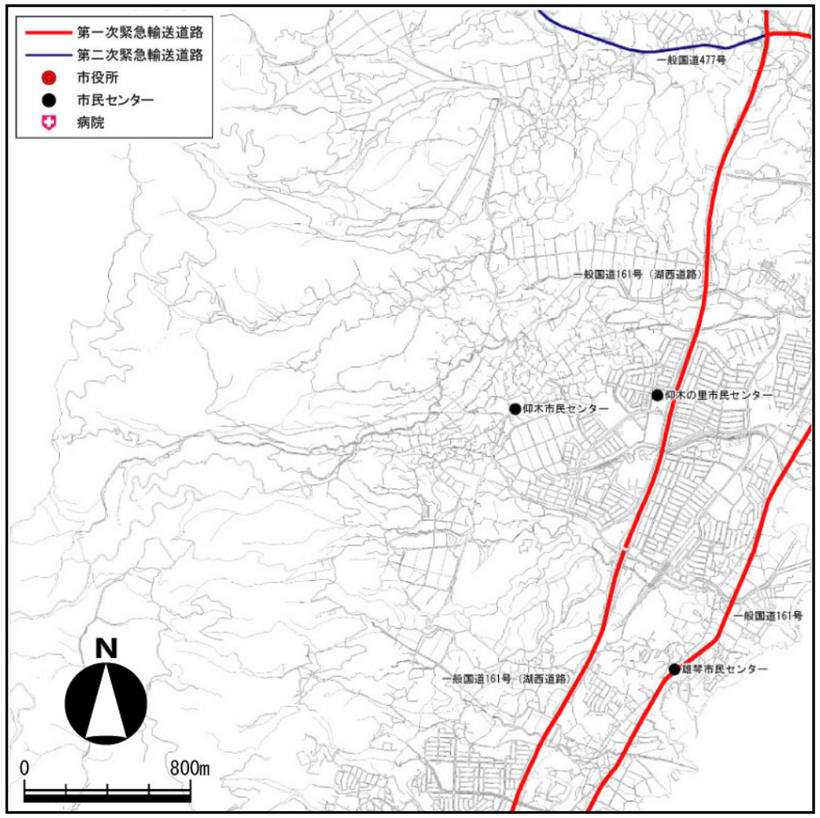
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津北警察署	**真野二丁目 20-23**	**573-1234**

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
北消防署	**真野二丁目 23-1**	**572-0119**
仰木分団	仰木四丁目 1-5	572-2814

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	1,188	2,613	704	246	827	23	10	15	26	12	16	1	1	1
ケース２	1,188	2,613	636	263	768	20	9	13	26	12	16	1	1	1
ケース３	1,188	2,613	605	270	740	18	8	11	26	12	16	1	1	1

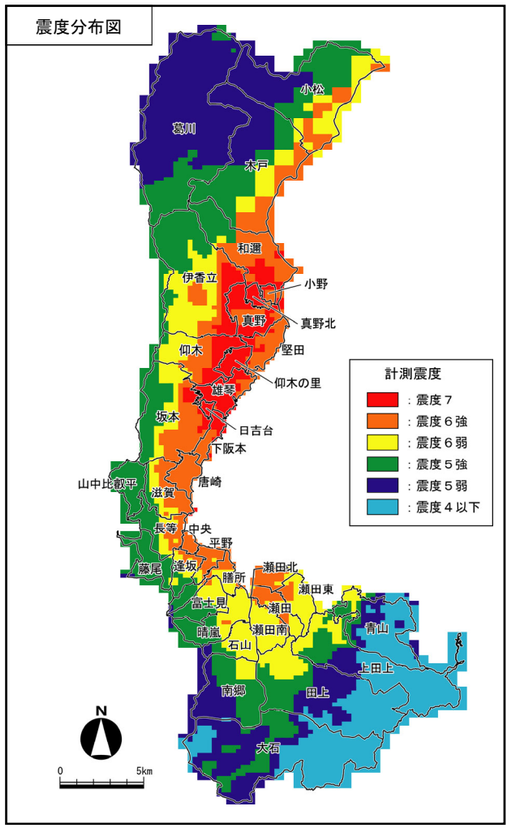
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	0	1	1	605
ケース２	0	1	1	571
ケース３	0	1	1	555

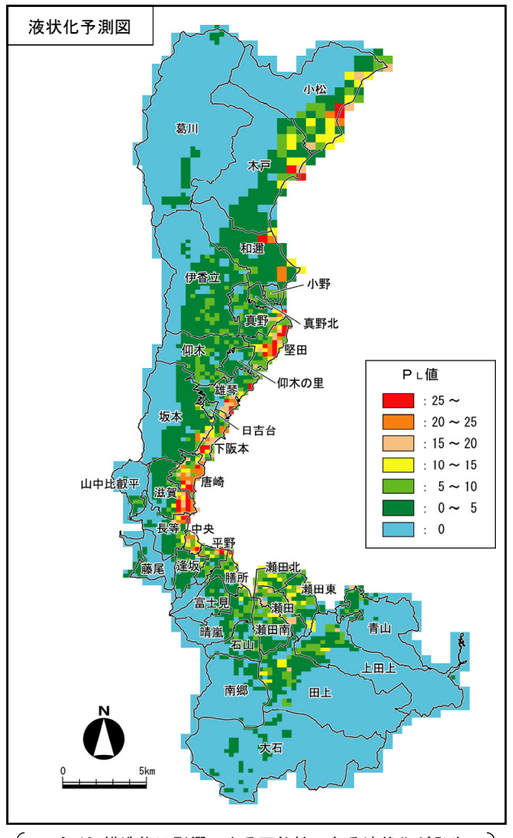
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）